

おわりに

以上、別海町に現存する旧開拓使別海缶詰所(現別海漁業協同組合倉庫)、および旧奥行臼駅本屋の各種図面作成に伴う調査結果について2部構成にて述べてきた。

旧開拓使別海缶詰所は創建時に比べ7割程の躯体が失われたが、中学校々舎時代を経て漁業関連施設(倉庫)として今も活用され続けている。このことは缶詰所誕生の出自を考えると幸いな事である。また、明治に造られた建築を今も現役で使用し続けることは、持続的社会を目指す現代社会において意味のある事であると考えられる。保存状況も屋根の葺き替えやサイディングにより遺構が保護されている。今後も過去に発生した破損・腐朽等の異常箇所の経過観察を継続し、状態悪化が見られ次第、適切な補修等の対応をとられることを期待したい。

遺構の情報発信方法は、現役の倉庫でもあるので建物内部の一般公開は不適と考えるが、これまでの説明板やホームページ上のコンテンツの他に、今回作成した図面や前掲「出来方建繪圖」、「罐詰器械所地繪圖」、「開所式の景」等の史資料を根拠とした3DCGによる復元モデルや模型作成による視覚的な情報提供も有効となっていくだろう。

旧奥行臼駅本屋は標津線の廃線当初より、別海町から文化財として高く評価されており、現在同町により検討中の「奥行臼史跡公園整備基本計画」においても主要な構成要素として位置付けられている。またその一方で、建物の老朽化や凍上による影響が深刻化しており、早期の根本修理が必要であることや、復原方針決定の際には手順を追った慎重さが重要であることは同町により十分認識されている。ここ数年の間でその方針が決まり、修理工事が実施されることになっており、最適な復原と継続的な保存と活用が実現されることを期待したい。

なお本調査にあたり、別海町在住の方々には様々な協力をいただいた。特に別海町教育委員会学芸員の戸田博史氏からは旧開拓使別海缶詰所に関わるご自身の論文や関連写真資料、旧奥行臼駅に関する図面資料の提供をいただくとともに、現地での様々な便宜をいただいた。別海町文化財保護審議会委員の福原義親氏からは、旧開拓使別海缶詰所の中学・漁協時代の写真や文献資料の提供をいただいた。また、別海町本町在住の瀧口京子氏からは、別海村立中学校時代の貴重な証言をいただいた。ここに記して感謝申し上げます。

令和 4 年度

日本遺産 “「鮭の聖地」の物語～根室海峡一万年の道程～” 構成文化財調査事業
旧開拓使別海缶詰所、および旧奥行臼駅本屋 実測調査報告書

発行日 令和 5 年 6 月

編 著 釧路工業高等専門学校 西澤岳夫

発 行 鮭の聖地メナシネットワーク

企 画 別海町教育委員会

令和 4 年度文化庁文化資源活用事業補助金